

# 市政ニコニコス

## 市民グループと対話 「中貝市長とふれあいトーク」開催



▲赤ちゃんも一緒に参加。日頃の思いを語る

平成21年度から毎年開催している「中貝市長とふれあいトーク」は、仲間が集まり、市長と気楽に話せると毎回好評です。今年も、7月17日から8月8日の間に6会場で開催し、17グループが参加しました。将来の目標を頼もしく語る高校生。子育ての悩みを仲間と共有しながら頑張っているお母さん。女性の目線で火災予防に献身的に取り組む消防団員。地元特産品の開発や、郷土の文化芸術、祭り、豊かな自然を生かし地域の活性化



▲特産品の生産と加工で頑張る人たち

市では、地域単位の懇談会などで多くの市民の皆さんの意見を聴くとともに、今後このような少数人数の気軽な話し合いの場も作り、「対話と共感」の市政を推進します。

に奮闘する人たち。食生活の改善やごみの不法投棄対策などにより市民の生活を支える人たちが。経験を生かして頑張る高齢者グループ。初めは緊張した雰囲気でしたが、次第に打ち解け、笑いも出るなど話が盛り上がり、あつという間に1時間が過ぎました。

## ロンドンオリンピック女子バレーボール競技 市民一丸となつて井上香織選手を応援

本市出身で初のオリンピック選手である井上香織選手は、女子バレーボール予選リーグ第1戦から出場し、大活躍しました。

8月3日、市民の皆さんの募金により総合体育館に大スクリーンを設置し、多くの市民が集まり応援しました。

観戦したのは、予選リーグ「日本」対「ロシア」戦。井上選手のアタックやブロックが見事に決まるたびに、会場は大き



▲大画面に映し出された井上選手への大声援

な歓声と拍手に包まれました。また、11日の3位決定戦も、大スクリーンで応援しました。

## 宇宙への関心や知識を高め、夢を広げる 宇宙教育新規事業「スペースキッズ」実施

市では、宇宙教育の一環として、本年度から新たに小学生を対象に「スペースキッズ」事業を実施しています。

7月21日、第1回学習会を図書館本館で開催し、国際宇宙ステーションへの無人補給機「こうのとり3号機」の打ち上げの様子をインターネット中継で視聴しました。

8月4・5日は、筑波宇宙センターを訪問し、施設見学



▲宇宙へ飛び出す!! ~船外活動訓練~

や宇宙飛行士模擬訓練などを体験しました。

### 主な市政の動き

#### 7月

- 17日・南極昭和基地との交信南極授業
- 中貝市長とふれあいトーク(22・30・31日、8月3・8日)
- 19日・韓国高陽市「高陽環境運動連合」がコウノトリ野生復帰学習・環境体験来訪(21日)
- JICA「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」中国研修団来訪(21日)
- 22日・ラムサールWetland(29日)

#### 8月

- 3日・ロンドンオリンピック女子バレーボール競技の井上香織選手を応援(11日)
- 7日・宮城県遠田郡美里町と災害時相互応援協定締結
- 9日・世界一田めになる学校2012 in 東京大学(東京都)
- 26日・国立台湾大学生が豊岡研修体験報告
- 夏休み子ども防災監養成講座(8月8・10日)

## 南極昭和基地・宮下隊員と豊岡市との初めての交信

### 城崎小学校児童との南極授業

7月17日、第53次南極地域観測隊越冬隊員として南極昭和基地にいる本市派遣職員宮下隊員が、母校である城崎小学校の4、6年生90人に南極授業を行いました。

授業は、国立極地研究所の専用回線・テレビ会議システムを通じて行い、当日午後2時30分(南極時間では午前8時30分)、宮下隊員が昭和基地とその周辺施設を紹介することから始まりました。

続いて、南極大陸や観測隊の紹介、担当している仕事などのレポートがありました。

事前学習をして授業に臨んだ児童らは、「南極に行つてびっくりしたことは何ですか」「野外に出たときトイレはどうしますか」など、いろいろな質問をしました。

市は、今回の南極交信を、市内の小学5年生を対象として、8月30日(木)午後2時から、市民会館文化ホールで行いま



▲昭和基地から届いた映像。右が宮下隊員

## 大規模災害時に相互応援を迅速かつ円滑に実施するために 宮城県遠田郡美里町と災害時相互応援協定を締結

宮城県遠田郡美里町と災害時相互応援協定を締結しました。今回の締結は、東日本大震災に際して、本市が美里町

に行った支援(給水車、灯油や自転車、食料、生活用品提供)が縁となったものです。

8月7日、同協定調印式を行い、美里町から来訪した佐々木功悦町長と中貝市長が調印しました。式には、美里町議会の相澤清一議長と本市

の森田健治市議会議長が立会人として出席しました。

災害時に相互応援する内容は次のとおりです。

- ①被災者の救出、医療および防疫ならびに施設の応急復旧等に必要物資の提供
- ②食糧品、飲料水その他生活必需品等の提供
- ③避難者を一時収容するため必要な施設の提供
- ④この協定に基づき実施する



▲笑顔で握手をする佐々木町長(右)と中貝市長

## 中貝市長の徒然日記 58

### 大分で講演する長い一記

7月下旬、大分県知事主催の「豊の国商人塾」に招かれ、コウノトリをめぐる取組みを話してきました。大分の商人塾とコウノトリ?不思議な組み合わせです。それには、長い一記があります。

元は、東京直行便でした。航空関係者の目を豊岡に向けてもらおうと、平成19年、全国地域航空システム推進協議会が主催するシンポジウムを豊岡に誘致しました。そのときのコーディネーターが、豊岡のまちづくりに共感し、「応援したい。まず、市長の話を東京でさせよう」と関係者に働き掛け、翌年のシンポで講演することになりました。

その会場に、宮崎空港開設を担当した国のOBがおられ、豊岡の取組みに感動し、宮崎空港の社長に話をされ、空港関連会社の研修会で聞こう、ということになりました。その講演の中で、有機農業推進の草分け的存在である宮崎県綾町のことを「豊岡のお手本」と述べたところ、その話が宮崎空港社長から綾町長に伝わり、今度は、綾町の有機農業大会に招かれてスピーチをすることになりました。

その会場に、綾町の有機農産物を仕入れている沖繩県最大の流通グループの社長が来ておられ、講演会終了後「市長、コウノトリの米、うちでも扱えますか?」という話になりました。JAにつき、その年末から沖繩での販売が始まりました。今や、年間1000トン売っていただいています。

その社長にインタビューをした流通専門誌の編集長が、社長から豊岡を強くアピールされ、豊岡に来られました。その取材報告を受けた雑誌の編集主幹が、それなら自分が塾頭をしている知事主催の商人塾で話を聞こう、ということになりました。

これが、大分の講演へと続いた長い道のりの概略です。この物語がここで終わるのかどうか。しかし、それにしても、縁というのは不思議なつながり方をするものです。